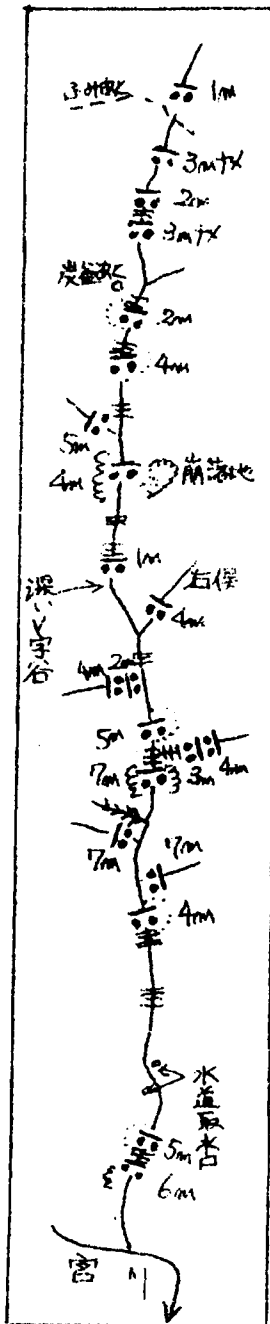


1個があっただけで、10:25北沢本流着。カの沢の下降終了。(記

【タイム】 カの沢下降開始(9:30)→下降終了(10:25)



## 宮川支流四ノ沢

1988年9月17日

北沢支流口の沢(仮称)の遡行終了後尾根上の踏跡をたどり、五来山が近くになるあたりで沢に下る踏跡を見つけ、それをたどって宮川支流四ノ沢(仮称)の源頭に出る。下降開始11:25。

小滝をまじえた細い流れが続く。花崗岩の岩床であるから、滝も期待できそうだ。やがて右岸に炭焼釜の跡を見る。こんな山奥まで炭焼きに通ってきていたのだろう。釜までの踏跡は残っていないので、沢ぞいに通ったのか、それとも尾根筋から下ってきたのか、見当もつかない。

炭焼釜跡を過ぎると、すぐ2mの滝。ホールドがないので、右岸を捲いて下る。いよいよ滝が出てきた。続く4mは左岸を捲いて下る。登ることならできそう。右岸から支沢が合流したあとの4mはクライミングダウン。そのあと沢筋は深いV字谷の様相を呈するようになる。

11:50二俣。下降してきた左俣の方が水量がやや多いが、左俣もすぐ奥に4mの滝をかけ、遡ってみたいという気を起こさせる。後日の宿題にして先に進む。

5mの滝の左岸を捲いて下ったあと、出てきたのがこの沢最大の滝、7m。若干ナメ状。途中までクライミングダウン(かなり微妙なフリクションのきかせ方が必要)してみたが、最後の2m程が下れない。右岸にトラバースぎみに逃げ、倒木に取り付いて下った。登ることはできそう。捲いて下るならかなりの高捲きになる。

このあと沢筋は土砂が堆積して、河原状を呈してきた。倒木が目立ってくる。どうしたのかと思ったら、倒木が集積して自然の砂防ダムを形作っていたのである。そのあと

